

第3章 未来像と基本戦略

1. 松阪市が目指すべき未来像

行きたくなるまち「まつさか」

「松阪市に行こう」と思っただけのように、松阪市が有する観光資源を磨き上げ、誰もが行きたくなるような情報を国内外に発信していきます。

2. 基本戦略と各指標

(1) 旅マエ（発地）への行きたくなる情報発信

松阪市に興味を持ってもらい、松阪市へ行きたくなる情報を発信します。旅行先を決める際に旅マエの情報は非常に重要です。多く方が情報に触れる機会を創出することはもちろん、特定の分野の詳細を知りたいという方にも必要な情報が届けられるよう、データの収集や分析を行うことで、的確な情報発信に取り組みます。

【未来像の実現に向けた指標】2027（R9）年（2023（R5）年対比）

・Web サイト閲覧数（PV）

2023（R5）年度 678,970 件 ⇒ 2027（R9）年度 777,000 件

・SNS（インスタグラム）アカウント「@visit_matsusaka」フォロワー数

2024（R6）年3月末 9,768 人 ⇒ 2028（R10）年3月末 12,000 人

・海外向け SNS（インスタグラム）アカウント「@discover_matsusaka」フォロワー数

2025（R7）年1月末 380 人 ⇒ 2028（R10）年3月末 800 人

（２）おもてなし環境の整備と市民の観光意識向上

松阪を訪れた方が満足できる時間を過ごせるよう、おもてなしの気持ちを持って観光施設の整備や観光資源の価値の創出を図ります。また、地域が一体となった観光振興に向け、市民一人ひとりの郷土の歴史・文化などに対する誇りを持てるような環境づくりに取り組めます。

【未来像の実現に向けた指標】2027（R9）年度（2024（R6）年度対比）

・ 市民意識調査の観光地意識

2024（R6）年度 26.7% ⇒ 2027（R9）年度 40.0%

※質問内容：あなたは、松阪市を観光地だと思いますか。

（３）旅ナカ（着地）における魅力的な事業展開

宿泊者数の増加や市内滞在時間の延伸を促進するため、既存の観光資源の高付加価値化の推進や、もう一度訪れたくなるようなイベントの実施、体験型プログラムの発掘などに取り組めます。

【未来像の実現に向けた指標】2027（R9）年（2023（R5）年対比）

・ 観光施設（モニタリング 10 施設）入込客数増減率（平均）：110.0%

・ モニタリング対象宿泊者数増減率：120.0%

・ 観光消費額（推計）増減率：110.0%